

学年の実践

2 年 英語 科

1 授業の見方・考え方を達成するための手立てについて

(1) 気付く学び

【英語】2/1(金)実践

- iPad を使用して、意欲的に意味や語形変化を調べていた。
- 興味をもってグループ活動ができていた。
- 辞書機能は1人の生徒が使う場面が多かった。
- (他は見ているだけのグループもあった)

(2) 深化する学び

【英語】

- 動画はとても面白く、関心をもって比較の学習ができた。
- 馴染みのある芸能人や先生たちを題材にしたクイズは、生徒たちが身近に感じられ、比較のイメージがわかりやすい。
- 動画の方ばかりに目が行ってしまった。
- 英語でのグループ活動について、クイズの答えを考えるだけになってしまったので、グループで英文を言い合ったり、書かせたりする言語活動させてはどうか。

【パワーポイント】

中国 アメリカ ロシア カナダ

960万平方キロ 96万6861平方キロ 1707万5200平方キロ

ロシアは4か国のうち一番大きいです。
Russia is the largest of the four.
ロシアは世界中で一番大きいです。
Russia is the largest in the world.

(3) つながる学び

- 基本表現を使用して、活発に会話ができた。
- 特定の人ばかりと会話をしていたため、問題ごとに会話するパートナーを変えたり、教師が会話するパートナーを決めたりする支持を出す必要があった。

【ワークシート】

クラスの友達と比べてみよう！

1. A: How old are you? B: I'm _____ years old. / A: When is your birthday? B: It's _____

2. A: How tall are you? B: I'm _____ cm tall.

3. (8人以上で) A: Let's do "Rock, Paper, Scissors."

2 3学期の研究実践の成果と課題（その授業の見方・考え方に迫れたか）

- ・日常生活の話題や身近な事柄を題材にした口頭導入、新出表現を用いた会話活動、実生活での使用場面を想定し、既習事項を用いた会話活動など、気付く、深化する、つなげる学びをし意識して授業を展開することはできたが、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるまでには至ってはいない。新出表現に既習表現を盛り込んだ言語活動を行い、進んで英語を使おうとする場面を設定し、生徒たちの発話量を増やしていくことが必要である。

学年の実践

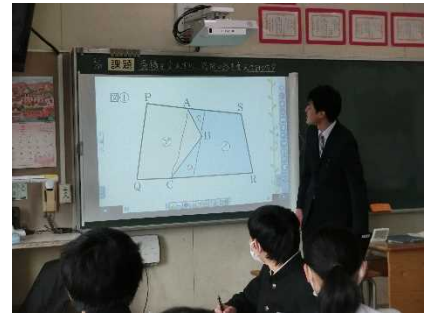
2 年 数学 科

1 授業の見方・考え方を達成するための手立てについて

(1) 気付く学び

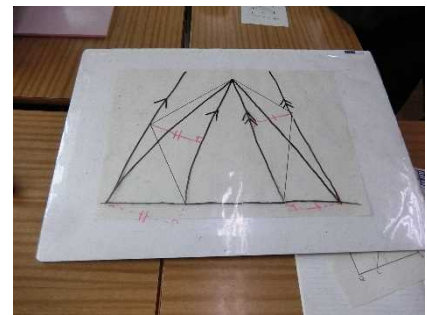
【数学】2/22(金)実践

- 図形の問題を土地の面積に置き換えたことが分かりやすかった。
- 生徒を意図的に指名して、解き方を全体に気付かせることができた。机間指導が有効であった。
- 困っている生徒に前時に学習したことを想起させ、声かけをすべきだった。
- 生徒の発言を全体に広げていく必要があった。



(2) 深化する学び

- まなボードを使用することで、普段消極的な生徒も取り組みやすかった。
- グループワークが上手くいっていた。
- まなボードを色分けして記入するようにするとよかった。
- 解答ではなく、ヒントの出し方に工夫が必要。



(3) つながる学び

- これからの身近な学びにつなげていくような問いかけがあるとよかった。
- まなボードでの発表もただ評価するだけでなく、全体で考えるとよい。
- 普段活躍できない生徒に活躍できる場面があるとよい。



2 3学期の研究実践の成果と課題（その授業の見方・考え方に迫れたか）

- ・今回学習したことが、日常生活のどのような場面で役に立つかにつなげる授業展開をしていくことが必要である。
- ・生徒間でお互いに教え合うシステムを授業に取り入れ、苦手な生徒が解き方のヒントに気付けるとよい。